

# 令和3年度 事業計画書

公益財団法人富士市文化振興財団

## 1 事業の実施にあたって

富士市文化振興財団は、設立以来、29年間にわたり、富士市文化会館ロゼシアターを活動拠点として、様々な自主事業を展開するとともに、会館の管理運営に取り組んできました。

実施した自主事業は、1,131事業を数え、令和3年1月末までの会館利用者は、累計で1,193万人を超えるなど、富士市を中心とする地域住民の文化芸術活動を支援するとともに、静岡県東部地域の文化芸術の発展に貢献してきました。

令和3年度は、当財団が富士市より5年間の第4期目指定管理者に選定された3年目となります。引き続き、利用者に満足していただけるよう会館の管理運営と自主事業を展開していきます。

会館運営については、引き続き収束のみえない新型コロナウイルス感染症への対策を徹底しながら、利用環境の整備と安定したサービスの提供に努めます。

施設設備の保守管理については、安全に施設が運用できるよう、計画的な保守点検等を実施し、維持保全に努めます。工事や大規模な修繕など、市が実施する工事・修繕には、円滑に事業が進むよう、万全の協力体制を整え、対応します。

令和元年度よりESCO事業導入のための改修工事が行われ、令和2年度より稼働しています。ESCO事業は、省エネルギー改修に係る全ての経費を光熱水費の削減分で賄う事業です。事業導入に伴い、電気や空調に関連する基幹設備が多数更新され、環境にやさしい機器構成となりました。事業の導入効果については、引き続き検証します。

このほか、ホール座席の計画的修繕、消耗部品の交換、不具合箇所の修繕、舞台設備の保守整備など、きめ細やかなメンテナンスを行います。

自主事業についても、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら、アウトリーチ事業の拡充や地元アーティストへの活動機会の提供、SNSを効果的に活用した情報発信をするなど、積極的な自主事業の展開を図っていきます。

また、市と連携をとりながら、東京オリンピック・パラリンピック関連事業に協力していきます。

当財団は、これまで培った経験と実績を活かし、今後も市民が利用しやすい会館運営に努めるとともに、市民が様々な文化芸術に触れ、楽しめるような環境づくりを行い、文化芸術事業等に還元するために尽力していきます。

## **2 管理運営事業**

### **(1) 施設運営**

施設の適正な管理と利用者サービスの一層の向上を図るため、引き続き業務改善を推進し、催物の円滑な実現と文化会館の利用促進に努めます。また、多様な利用ニーズに対し、的確に対応するための専門的知識を備えるため、知識を持つ職員が人材育成に努め、スキルの向上とキャリア形成に繋がります。

新型コロナウイルス感染症対策については、職員および関係スタッフの健康状態の把握、飛沫感染防止対策や社会的距離の確保を徹底します。

利用者には利用内容に応じた感染対策のアドバイスや事前打ち合わせを綿密に行い、利用者の安全を第一に、市と連絡調整を密にしながら必要な取り組みを行います。

### **(2) 施設保全**

長期的視点で老朽化対策を見据え、点検、診断によって得られた施設の状態を把握し、市と協議しながら計画的な施設保全を図ります。

設備・備品については、経年による老朽、消耗が顕著なものから危険度を重視し優先順位をつけ、計画的に修繕や更新を行います。

### **(3) 災害対策**

災害や緊急時における対応力と防災意識の向上を高めるため、以下の取り組みを推進し、職員の防災意識の啓発に努めます。

- ・ 消防訓練の計画的実施（年2回）
- ・ 防火管理講習等の受講機会の拡充
- ・ 危機管理マニュアルの整備

### 3 自主事業

#### (1) 自主事業計画方針

令和3年度は、当財団が4期目の指定管理者として5年間の管理運営を任されている3年目にあたります。

平成25年度に富士市が策定した『富士市文化振興基本計画』の計画期間は、令和3年度末まで延期されました。現在、次期計画に向けた検討が進められていますが、「文化に親しむ機会の充実と発表の場の提供」「文化情報の提供と発信」「文化の交流と連携」「文化を担う人材の育成・支援」「文化に親しむ子どもたちの育成」など8つの施策の方向性を踏襲し、また時代の流れに沿った事業計画の実施を検討したうえで、富士市をはじめこの地域に根差した文化の創造、鑑賞機会の提供に努めます。

令和2度は、会館に足を運ぶことが難しい方々が気軽に文化芸術に親しめるように、アウトリーチ事業に関して特に力を入れて取り組んでいく予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、そのほとんどが中止となりました。令和3年度は、新型コロナウイルスの収束状況をみながら、病院・福祉施設・幼稚園等での「おでかけクラシック」、市内まちづくりセンター等での「マタニティコンサート」の実施を検討します。

なお、小学校でクラス単位等の小規模で開催する「おでかけ芸術教室」においても密を避け、アーティストと子どもたちがコミュニケーションをとって、音楽を身近に感じられる機会の提供を目指し、引き続き希望を募り小学校で実施します。

上記3事業への出演は、富士市内及び近隣市町で活躍するアーティストを起用し、演奏する機会の提供も併せて行います。

広報事業では、SNSを効果的に使い、様々なメディアを活用した多角的かつ有効的な広報展開や情報発信にも力を注ぎ、自主事業を構築します。特にYouTubeへの動画配信を積極的に行い、創作事業の要ともいえるオリジナルの市民ミュージカルや、地元演奏家のコンサートを配信し、ロゼシアターの事業を紹介するとともに、ロゼシアターの貸出施設の紹介やバックステージの様子なども配信し、ロゼシアターにより興味をもってもらうべく実施します。

開館30周年を迎える令和5年度に向け、大型記念事業の計画を進めるとともに、市民が文化芸術に触れ楽しめるような環境づくりを行い、様々な文化事業を実施し、地域文化の振興、人材育成、交流の促進、文化情報発信に力を注いでいきます。

## (2) 自主事業の概要

当財団は、富士市文化会館を地域文化の拠点として、市民文化の創造と発信の場としていくために、市民文化の振興を目的とした独自の自主事業を展開していく必要があります。

自主事業は、事業の目的毎に「普及事業」「育成事業」「創作事業」「交流事業」「鑑賞事業」「広報事業」「共催事業」に分かれており、令和3年度も各事業に応じたプログラムを計画的に実施していきます。

普及事業では、クラシック音楽の普及と優れた芸術文化に触れる機会を提供することを目的としたふじ少年少女芸術劇場「小・中学生招待コンサート」や「小学校学校コンサート」等を行います。

育成事業では、未就学児でも入場可能な「ロゼこどもスプリングコンサート」や「ロゼこどもコンサート」、地元出身の演奏家による「新人音楽家による演奏会」などに加え、地域で吹奏楽に親しむ中高生を対象とした「シエナ・ウィンド・オーケストラ アンサンブル・ワークショップ」を開催します。同楽団とは、様々な形で連携し事業展開していくことを計画しています。展示部門では、19回目となる「新進アーティスト作品展」を開催します。

創作事業は、平成10年より継続して開催している市民ミュージカルを行います。新型コロナウイルスの影響で無観客での公演を余儀なくされた場合に備え、インターネットで配信可能な内容での実施を予定しています。

交流事業では、地元文化団体の協力のもと、館内施設を活用した「スタンプラリー」や「トレインフェスタ」、アウトリーチ事業として「おでかけ芸術教室」「おでかけクラシック」「コミュニティコンサート」「おでかけミュージカル」を実施します。

鑑賞事業は、幅広い世代が、様々な文化芸術をお楽しみいただけるよう音楽から演劇・ミュージカル等、多彩なジャンルの公演を行います。音楽公演では、世代を問わず人気のあるディズニーの名曲を映像とともに楽しむ「ディズニー・オン・クラシック」、「大井健」「牛田智大」といった人気のピアニストによるソロリサイタルを開催。演劇公演は有名俳優が出演する二兎社の「鷗外の怪談」。また、アンケートでのリクエストも多い「劇団四季ミュージカル」や18回目の開催となる「ロゼフォークプラザ」を実施します。

共催事業では、実行委員会形式で実施する「ロゼピアノコンクール」をサポートし、演奏者の育成を支援します。

この他、広報事業として多彩な芸術文化情報を広く市民に提供するため、「文化情報誌ロゼ」や静岡県東部地区を主対象に総合チラシの新聞折込を行う「ロゼナビ」を発行し、自主事業の周知に努めます。また動画配信にも力をいれロゼシアターからの文化の発信を行います。

令和3年度も、幅広く市民のニーズに応えるよう、多種多様な自主事業を展開していきます。